第55回中央労働講座

6月6日から8日の2泊3日、豊橋シーパレスで、第55回中央労働講座が開催されました。関西地本から４名が参加し、大阪支部からは私が参加しました。各地方から27名と中央本部から５名の合計32名の参加者がいました。

～第１日目～

15時から早速、第１講座がおこなわれました。講師は中央本部副委員長の鈴木龍一さんがおこないました。題名は「更なる組織強化と運動の前進～原点回帰」「組織強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」というタイトルのもと始まりました。

11ページの資料には、失われた30年間私たち労働者にとっても賃金が上がらないなど弱体化していく日本、そして労働組合としてもこの30年は「たたかう気概すら奪われた30年」とありました。そして、現在の労働組合の現状について講義があり、若い世代の組合離れが深刻なことについては各地方共通の課題であると感じました。そして、労働組合の重要性そして、役割や任務について知識を深め、組合リーダーに必要な基礎知識、日常の活動や振る舞いなど細部に渡るまで丁寧な講義を受けました。

～第２日目～

２日目は２部構成でおこなわれ、

第１部は中央執行委員長の鈴木誠一さんから「全国港湾の成り立ち」について講義があり、戦後の港湾労働の歴史や、1947年の日本港湾中央会解散によって六大港が戦前のような業者乱立状態に陥り、港湾労働者の就労権を掌握する手配師たちによる中間搾取が横行し、1953年全港湾設立の流れを自身の青年期の体験談を織り交ぜ詳しく講義して頂きました。

そして、革新荷役から体制的合理化（雇用破壊）に話しが移り、1968年全港湾と日港労連は「魅力ある港湾労働についての基本的考え」が提案され、いまの協約の基礎になる要求が提案されました。1972年全国港湾を結成、2008年全国港湾連合会へ組織強化となる歴史認識を深めていきました。

そして第２部では、中央副委員長である畠山昌悦さんから「労働基準法」について講義がおこなわれました。Q&A方式のなど大変楽しく学べる時間となりました。最後の小括のなかに「労働基準法があるにもかかわらず、未払い賃金の横行や長時間労働による過労死など労働者が被害者となる事件が後を絶ちません」とありました。私もいくつかの分会を担当していますが、この様な問題があります。今回の講義をきっかけに労働基準法の知識を深め、労働者が被害者にならない組合運営をおこなわなければいけないと感じました。そして小括のなかには「労働基準法の運用は現実的には労働者に圧倒的不利で未成熟な法律なのです」ともありました。全港湾の運動力をもってこの不利的な立場を対等なものしていければとも感じました。

そして講義が全て終わり、レクリエーションでドッチボールをおこないました。最初は「いい大人が」と思いましたが、時間が経つにつれて夢中になり、鈴木委員長が頑張っている姿を見ていると感化され、最後には汗だくになるまで夢中になっていました。成績は頑張りも虚しい結果となりましたが、チームメートと団結できたと感じました。

～最後に～

現地に行くまでは気が重く、また班の長も任され、さらに気が重くなりましたが、ドッチボールで団結できたことでみんなとの距離感が縮まり、そしてグループ討論でも活発な意見や自身の体験談などたくさんの意見交換ができました。そして最後のグループ討論（総括）では、これからも皆と問題を共有や相談ができたらという意見が出て自分も皆と共に頑張ろうと決意を新たにできました。

（執行部　佐久原 智彦）

だんけつ

第384号　　2024年6月25日

発　行
大阪市港区築港1－12－27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者　國分仁昭

危険と隣り合わせの万博反対

書記長　吉馴　真一

２０２４年６月６日、大港労協三宅事務局長を招き港湾の職域に対して、万博・ＩＲが私たちにどのような影響をもたらすのか、また翌々翌日には、ジャーナリストの西谷文和さんを講師として「万博止めて維新を止めよう」を題材に連続して学習しました。

両講義を受けて、なぜ夢洲？誰のための？何のために？などおかしなところだらけの万博を報告します。

まず、夢洲の万博1・2区、ＩＲカジノ３区の地盤に関してですが、情報公開請求にて出てきたデータによると地下57メートルまで「Ｎ値５」です。Ｎ値とは何か？重さ63.５キロの重りを高さ75センチから自由落下させ、30センチ沈むまでに落下させた回数です。ちなみに２階建ての一般的家屋を建てる場合は最低でもＮ値20が必要で、高いビルやマンションならＮ値50以上ないと建てれません。つまりN値５というのは保育園の砂場レベルです。　なぜなら夢洲は、建物を建てようとして埋め立てたわけでなくゴミ処分場として、川底の土砂ヘドロなど含水率50％、つまり半分は水で半分はＰＣＢ（化学物質：きわめて毒性がきつい）、六価クロム、水銀など有害物質を含んだ汚泥を埋めては固めてを繰り返した埋め立て地だからです。開始から約30年ですでに５メートルも沈んでいます。ここに高層物を建てるなら海底の岩盤まで届く80メートルの杭（約１億円）を何百本も打つ必要があります。また、吉村知事は昨年８月の関西コレクションで「会場の上には空飛ぶ車が飛来する」「自転車のようにぐるぐる回っているのが見える」と予言。おそらく巨大なドローンですが、万博会場を飛行させ墜落でもしたら搭乗者はもちろん来場者も犠牲となります。そしてその着陸場とシャトルバス駐車場は、ゴミの焼却灰で埋め立てた１区です。ダイオキシンや、アスベストなどが充満し、ゴミからは今でもガスが出てくるので、79本の煙突でガスを排出させています。溜まると爆発します。すでに爆発事故が起きています。さらに、吉村知事の説明どおりの来場者数となれば、もともと無人島で橋とトンネルだけの夢洲に想定外の人が訪れることとなります。

もともと大阪府民の生活を支える物流拠点としての関連車両だけでも渋滞問題を抱えていましたが、そこにどれほどのシャトルバスや関連車両が行き来するのか？橋とトンネルは、まさに砂時計の中心の細い部分のようになり、巨大な渋滞が起きるでしょう。そこで、病人やケガ人が出たらどうするのか？台風や地震が起きたらどうするのか？他にも上下水道問題など書き出すときりがなく、わずか半年の万博開催に地下鉄まで．．。

その後のＩＲカジノが見え見えです。お金の問題もかなり深刻ですが、安全を度外視し、命にかかわる危険と隣り合わせのまま大阪万博開催に向け、今も強行していることが大問題です。

以前、維新の松井、吉村、馬場がメディアなどで言っていました。「何兆円もの経済効果で、大阪は儲かりまっせ」と、私には「客から博打でたくさんお金を巻き上げまっせ」に、聞こえます。府市長や過半数政党が発想し、実行することなのかと呆れますが、ほっとけません。

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とは、真逆の恐ろしい未来が想像つくからです。

今の府政に望み期待など持ちようがなく、住み良い街、安心・安全な生活を手に入れるためには、世論を動かし、万博・ＩＲカジノを止め、維新の暴走を必ず止めなくてはなりません。真っ当な政治を取り戻すまであきらめず運動展開していきましょう。

PEACE ACTION 2024
沖縄平和行進

沖縄で感じたことを後生に伝える

青年部　　石本　洸一

今回初めて沖縄平和行進に参加させていただいて全国の青年部の方がた、沖縄県在住の人びと、そして最前線で抗議活動をされてる方たちと触れ合って、とても勉強になりました。

正直に言いますと、事前にマスメディア等で見た情報より、ひめゆり資料館の戦争の生なましさ、凄惨さを目の当たりにして目を背けたくなりました。

それでも現地で見たもの、聞いたこと、感じたことを後生に伝えていくという行為は、決して戦争を繰り返さないためにも、僕たちがなすべき義務だと思います。

歩いて基地の大きさを実感

青年部　　山本　光伸

初めての沖縄平和行進に参加しました。デモ行進で基地の周りを歩き、基地の大きさを体感したり、ひめゆりの塔やいくつかの壕の視察に行き、戦争の残酷さや当時の起こったでき事を見て、胸が苦しくなり、戦争というものをいかにやってはいけないというのを感じました。

現地に行かないと知れないこと、感じれないことがあり、現地に行く大切さを知り、いい経験になったと思います。

「震度７」を体感しました！

５月26日(日)、教宣部フィールドワークとして、大阪市阿倍野区にある阿倍野防災センター体験型防災学習施設「あべのタスカル」に、執行部、教宣部員、組合員親子も含め総勢13名で、参加し学習しました。

１９９５年に発生した阪神・淡路大地震以降、関西でも東南海・南海地震の発生が危惧される中、地震をはじめとした大災害に対する、市民の防災知識と技術に対するニーズが高まってきています。

阿倍野防災センターは、広く市民の防災に対する知識と技術を総合的な体験を通して学習できる施設という事で、防災体験学習に参加してきました。

体験コースが始まるまでの時間、おおさか防災情報ステーションエリアで大阪市全域の地形特性や被害想定を自分たちの住んでいる所や職場の地域の南海トラフ巨大地震での想定震度や液状化危険度、河川・内水氾濫地域などを分かりやすく確認できました。

防災体験学習が始まり、まずは地震発生直後から避難するまでの間に取るべき行動や注意点などを学習。

火災が発生してしまった場合の消火器での初期消火も体験できましたし、煙中避難体験もしました。煙は上の方にたまりやすく、低い姿勢で避難しないといけないのですが、急ぎすぎると煙が拡散され、視界がすぐに失われる事もわかることに気づきました。

場所を移動し、地震災害時の再現したエリアで実寸大での津波の映像や地震で窓ガラスが落ちてくる様子などを視覚的に体験することができました。

そして次は起震装置で震度７を体験しました。上下の揺れだけでなく、変則して横揺れも、とても立っていられる状態ではなかったです、これが不意に襲われると考えたらゾッとしました。

最後に、大地震発生時の備えを学ぶとして、災害時の対応策や備蓄品などについて教えて頂き、体験学習が終わりました。

これから起こりえる災害に家族や仲間をどうやって守るか、どうやって備えるかを考える良い機会になりました。

（執行部　　宮脇　祥三）

Xバンドレーダー基地撤去を訴える

６月２日、米軍Xバンドレーダー基地の撤去を！６・２京丹後現地集会に執行部４名で参加してきました。

この基地は近畿で唯一の米軍基地であり、10年前に地域住民の反対を押し切って建設・運用が開始されました。

Xバンドレーダーは日米共同軍事作戦の起点となる情報収集・監視の役割を果たし、得られた情報はミサイル攻撃と基地の防御（迎撃）に利用されます。日米韓のデータの共有や敵基地攻撃能力保有、日米の指揮権の一元化の動きのなかでXバンドレーダー基地は、戦時には攻撃対象になるその危険性が格段に高まっています。基地の撤去を求める活動は重要であり、その意義を広く知らせていくことが大切です。

近畿各地から約１００名が結集。現地で基地を監視し、粘り強くの声をあげる「宇川の会」の方のあいさつや韓国の反基地運動の連帯のメッセージなどもありました。

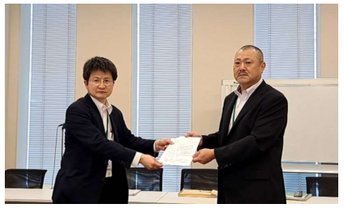
吉本副委員長が大阪支部の連帯メッセージとして「国会などで、たびたび日米地位協定の問題が取りざたされています。日本の国土のどこにでも米軍基地を置くことが許されており、北方領土をめぐる交渉においても返還された場合、米軍基地が配備される可能性からロシア側が懸念しており、北方領土も返還されないという状況です。また、密約で米軍人・軍属の犯罪に対しても捜査権・裁判権すら十分に行使できません。戦後日本と同じく軍事同盟のもとで主権を失っていた国々は、そこから抜け出し、正常な主権国家への道を歩み続けている中、今なおこの状態が続いている背景には、国民の生活が物価高や実質賃金の低下に苦しんでいること、裏金づくりや脱税、統一教会との繋がり、経団連中心に優遇してきた自民党政権の責任が極めて重大であると考えます。あらためて主権国家を取り戻し、憲法の前文に宣言されているその主権は在民にあることを再認識し、今後の労働運動や平和運動に活かしてまいりたいと思います。」とアピールしました。

現地集会に参加し、自然豊かな京丹後で、基地の存在が異様であると感じました。武力で平和は作れない。米軍の基地など不必要だと改めて実感しました。

（執行部　　宮脇　祥三）

有意義だった意見交換

第２回全港湾海コン・トラック・バス・タクシー合同会議



第２回全港湾海コン・トラック・

バス・タクシー合同会議が、５月28日に日港福会館で行われました。

全国から代表者29名が集い、大阪支部からは代表２名が参加しました。

今回は翌29日に衆議院第２会館での要請行動に対して、事前に質疑に対する回答を前もって書面でもらっており回答は受けたということで、当日の各省庁の対する、質疑意見交換などに特化しようということで意思統一し、明日の要請行動の確認をしました。

そのあと、交運労協学習会を慶島事務局長から「2024年問題」の課題と対策をテーマに物流の停滞が懸念される「2024年問題」の主な課題は荷待ち、荷役時間の削減、一人当たりの輸送量の向上、多重下請け構造の是正等による物流の生産性向上に適正運賃の収受とドライバーの賃上げなど約33ページにわたる資料から学習を受けました。

最後に、各支部の活動報告を受け、春闘総括をして１日目を終わりました。

２日目は、国交省、厚労省の各担当者との質疑意見交換等を衆議院第２会館で行いました。今回は事前に要請文の回答を、もらっていることから、回答以外の質問や問題点を各支部から部門別に熱く意見され、あっという間の２時間でしたが、有意義な時間を共有できたと思います。

（執行部　　宮脇　祥三）